

アルザス史 10 コルマルの解放

志村 良知

アルザス州は南部の高地ライン県（オ・ラン）と北部の低地ライン県（バ・ラン）の二つの県からなる、バ・ランの県庁所在地はアルザスのシンボル都市であり、現在はEU議会がある大都市ストラスブール（議会が置かれた理由の一つは、EU諸国の地理的中心にあるからである）。オ・ランの県庁は、日本では一部のアルザス・ファンしか知らない地方都市コルマルに置かれている。私は県庁の裏に広がる「シャム・デ・マース＝練兵場」公園に面するアパートに住んでいたが、勤務先の会社がアルザスに進出して工場を建設するまで、恥ずかしながらコルマルという町の名を知らなかった。

1944年11月にストラスブールが解放された時点で、フランスで残されたドイツ占領下県庁所在地都市は高地ライン県（オ・ラン）のコルマルだけになった。コルマルが解放されれば名目ともフランス全土の解放完了となる。これ故に、田舎の中都市コルマルの解放戦闘は第二次世界大戦史に個別の一章が設けられる特別な存在になった。

ドイツの「北風作戦」により危機に瀕したストラスブールは、アイゼンハワー司令部の作戦変更による第7軍第6軍団のストラスブール北方方面への展開、第15軍団のアルザス平原への南下、アルデンヌから転戦してきた米軍の攻勢、ソ連軍の攻勢で崩壊に瀕していたドイツ東部戦線強化のための、西部戦線からの戦力引き抜きによるドイツ軍の弱体化、フランス軍の勇猛果敢な奮戦、などで1月20日頃には危機を脱する。勢いを駆って「コルマルのポケット」への北からの攻勢が始まる。戦いはコルマルの北と東の平原と森の中での一寸刻みの陣取り合戦の消耗戦になり、連合軍はじりじりとポケットを狭めていった。

2月2日昼、アルデンヌから転戦し、フランス第1軍に配備されていた米第3歩兵師団がコルマルの北に防御の薄そうな地域を見つけた。右隣（西）にいた仏第5機甲師団とともに北から、さらに右にいた米第28歩兵師団は北西から、それぞれ突破口を開いてコルマルに向かって進撃、現在のリパブリック大通り北端で合流して市街戦を繰り広げながら南下した。市街中心にあるラップ広場に一番乗りしたのはシュレッサー将軍指揮下の仏第5機甲師団だった。それはアメリカ軍が先頭を譲ったからだという説もある。米仏軍はさらに四方に分かれて掃討戦に入り、その日のうちにコルマルを奪回解放した。

第二次大戦のフランス軍というと「だらしない」の一言しかない印象であるが、アルザスの戦闘ではアメリカ軍との緻密な協働の下、勇敢に戦ったのである。

1940年の崩壊後、フランス軍はド・ゴール亡命政権の自由フランス軍として植民地で再建され、1944年のノルマンディ上陸作戦以降は、被占領地レジスタンス軍も加わり、アルザス戦では、アメリカ製の武器で整備され、戦車も装備した本格的軍隊になっていた。

自由フランス軍時代からのド・ゴールの盟友、ルクレール将軍は東京湾のミズーリ艦上の調印式のフランス代表だったが、その後まもなく航空機事故死してしまう。何かパットン将軍との類似性を感じる。パットンの名を冠した戦車があるように、戦車乗りルクレールも現在のフランス軍主力戦車に名を残っている。

「フランス最後の占領県庁所在都市」コルマルが陥落すると、食料も矢玉も尽き果てライン川の向こうからの補給も援軍もないポケット内のドイツ軍は戦意を失う。国境の古い要塞都市ヌフ・ブリザックもほぼ無抵抗で放棄。2月6日にはライン川の向こうに撤退してライン川は再び（五度び？）ドイツ／アルザス国境に戻った。

2月8日、米・仏軍が肩を並べての解放パレードが行われた。パレードにはノーマン・コータ少将が参加していた。彼は1944年6月6日に第29師団副師団長として第一陣でオマハ海岸に上陸し、常に最前線で野戦の指揮を執ってきたヨーロッパに一番長い間いて、一番多くの部下を失った米将官だった。アルデンヌでも最前線の第28師団長で、ドイツ軍の初期攻勢にほとんど潰り潰されてしまった第28師団生き残りの部下たちと一緒にいた。

10日にはド・ゴールがコルマル入りし、ラップ広場で仏・米の兵士たちに勲章を授けた。ナチス忠誠書にサインしたはずの住民も含めて、いづこの町でも村でも連合軍を解放軍として熱烈に歓迎した。3月21日、北アルザスで抵抗を続けていたドイツ軍が国境を越えて撤退し、アルザスとドイツの国境は完全に1940年5月の線に戻った。

1995年2月3日、コルマル解放50年パレードが、ラップ広場を出発、シャム・デ・マース公園沿いに、沿道と建物がトリコロールと星条旗で埋まったリパブリック大通りを北上して町の北側に回り、1945年の進撃ルートで広場に入ってくるというコースで行われた。何人かの米・仏軍のベテランがド・ゴールの手で授与された勲章を付けて参加し、ラップ広場のド・ゴールの時と同じ場所で時の大統領フランソワ・ミッテランの閲兵を受けた。あれから27年、あのベテラン達の何人が健在だろうか。